

図画工作科事例Ⅰ 指導と評価の一体化を意識した「絵や立体、工作に表す活動」の実践事例

題材名 ここがお気に入り

第3学年 A表現(1)イ(2)イ, B鑑賞(1)ア, 共通事項(1)アイ

1 題材の目標

教室内の気に入った場所に、自分の姿が写った写真を組み合わせ、様々な材料などを生かしながらいお気に入りの世界を工夫して表すとともに、友達とお互いの作品について話し合うことを通して、自分の見方や感じ方を広げることができる。



2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、小さい「わたし」と場所を組み合わせた感じが分かっている。 材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 小さい「わたし」と場所を組み合わせた感じを基に、自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見つけ、表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 小さい「わたし」と場所を組み合わせた感じを基に、自分の見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。



3 題材について

本題材は、日頃見ている感覚とは違った視点をもつことで、思い付くイメージを楽しみ、紹介し合い、その場所のよさを味わうことをねらいとしている。小さい「わたし」になり、普段過ごしている教室や廊下でお気に入りの場所を探し、そのお気に入りの場所の特徴や形、色を考え、材料を使いながら、さらに自分のお気に入りの場所になるように工夫してつくっていく。

小さい自分の写真を使うことで、自分がその場所にいる気持ちで場所を眺めることができると考える。また、作品を紹介し合うことで、友達の見方や感じ方に触れ、小さい「わたし」と場所を組み合わせた作品の面白さを感じ取ってほしいと考える。



4 指導と評価の一体化に向けて(授業改善のポイント)

○ねらい、評価につながる声かけ

- ・児童の思いに共感したり、次の表現につなげたりできるような声かけをした。
- ・発想や構想の場面では、[共通事項]の内容である形や色、材料などの感じに着目できるような声かけをした。

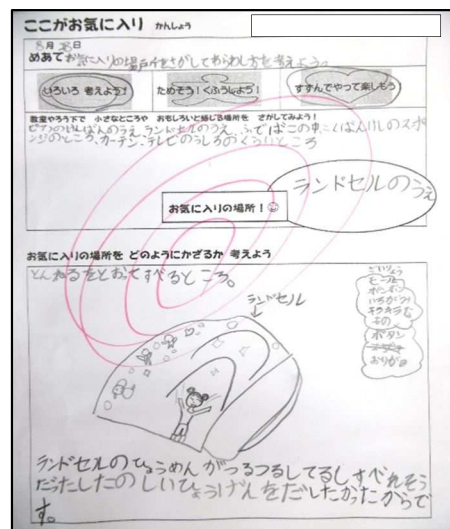
・作品について聞くときには、「どうしてそう考えたのか」「どこからそう感じたか」といったように、根拠を明らかにしながら説明できるように声かけを行う。

○作品づくりに向けてのイメージ作り

- ・小さい「わたし」が入りこめそうな場所を探す活動の時間を多めに取り、お気に入りの場所を楽しく見つけられるようにする。
- ・ポーズを考え、小さい「わたし」を前もってつくることで、お気に入りの世界をつくるためのイメージを広げられるようにする。
- ・お気に入りの場所の様子を問うことで、その場所のよさを生かせるようなイメージをもてるようにする
- ・子供たちへの声かけや観察、ワークシートを中心に、子供たちのイメージや活動したい場所等を把握する。また、製作後のワークシートについては、製作中の観察、声かけを基にその児童の工夫した点や変わっていった点などを見ながら評価の参考にした。

○鑑賞活動の工夫

- ・効果的な鑑賞活動になるように、クラスを3つのグループに分け、それぞれ7分間の時間を設定して、ローテーションで鑑賞を行った。1グループの子供たちが紹介をする時には、他の2グループの子供たちが友達の作品を自由に聞きに行く方法を取った。
- ・作品を紹介する際に視点を与えて活動を行うよう伝えた。作品の題名、お気に入りの場所に選んだ理由、作品の工夫(場所と材料をどんなふうに組み合わせたか、飾り方など)、感想など、友達の作品を見て質問や対話をしながら紹介し合うことで、お互いの感じ方や工夫を知ることができた。また、それぞれの児童のペースで話ができたので、自分なりの言葉を用いて紹介し合うことができた。



5 まとめ

1時間目に、小さい「わたし」になったつもりで、いつも生活している教室のどこかの場所に入りこんだらと考えながらお気に入りの場所をいくつも探す活動を行った。さらにそのお気に入りの場所にいる自分のポーズを考えながら小さい「わたし」を前もって製作した。そのため、2,3時間目の「さらにその場所をお気に入りの場所にしよう」という活動では、様々な材料でお気に入りの場所をつくりかえながら、小さい「わたし」とお気に入りの場所とを組み合わせ、作品のイメージを広げながら進めることができた。また、「ふわふわな感じ」「透明でのぞける」「隙間があって入りこめる」「跳ねたくなる場所」「ぶらさがれる」など場所の様子を問いながら、全体でも個々でも声かけを行うことで、イメージと場所の特徴をつなげながら活動ができた。

しかし、この場所でこうしたいという思いがあっても、材料を使いながらお気に入りの「世界」をつくっていく活動が進まない児童もいて、声かけの工夫の大切さを感じた。活動場所は、子供たちがお気に入りの場所として決めた所を活動場所として進めた。教室の中央に材料コーナーをおくことで、自然と材料を取りに行きながら友達の作品も見ることができ、学びを深めることができた。

